

# 紫 朋

SHIHOU

Vol. 49 平成 16 年 4 月

発行 横浜市立金沢高等学校  
同 窓 会 「紫 朋 会」

## 会長挨拶



第十二期卒  
(昭和三十九年卒)  
高 梨 修

紫朋会会員の皆様におかれましては、ますます「健勝でお過し」のこととお慶び申し上げます。また日ごろから当「紫朋会」に対して様々な「支援」鞭撻を頂き、厚くお礼申し上げます。さて平成十五年度の紫朋会は、例年通り、五月末の総会、年三回の常任幹事会をはじめ、秋には金高祭への参加、春・秋のハイキングの会、舟釣りの会、十二月のリース教室と、予定の行事を滞りなく行う事ができました。特に五月の総会では、終了後の懇親会に十四年度卒業の新入会員が各クラスから非常に多数参加されて久しぶりに大盛況となり、大変に嬉しく、元気づけられました。

さて、昨年も申し上げた通り、紫朋会を取り巻く諸状況は、ますます厳しくなっており、紫朋会の運営および活動のあり方をどのようにしていくか、が喫緊の課題となっています。もとより同窓会は卒業生の集まりであり、卒業生同士の交流が活動の基本的な目的であることは言うまでもありません。その大元となるのが、今「ご覧頂いている「会報」の発行です。しかし、本当に同窓生の役に立つ、その存在が喜ばれる同窓会であるためには、会員人材バンクなど相互の連携強化策や、交流場所の検討、在

校生との関係の強化などを進めて行く事が必要だろうと考えます。

これらの、いわば「紫朋会の夢」を実現していくためには、「どのような活動が望ましいのか」、「新しい活動のための予算をどう捻出するか」、「増え続ける会員にお届けする会報の印刷・郵送のコストをどう合理化するか」など多くの解決すべき課題があります。

これらの問題を検討していくために、紫朋会では昨年、歴代会長を中心メンバーとする「紫朋会構造改革委員会」の発足を決め、11月に第1回の会議を開催しました。この会議は今年度も引き続き進めて行きますので、有志会員の積極的参加をお待ちします。

またこれからの紫朋会のあり方について、会員の皆様の様々なご意見、積極的な提案もお聞かせ頂きたいと思えます。どちらも大歓迎ですので、同期の常任幹事経由で、あるいははがき等でご連絡下さいますようお願い致します。

最後になりましたが、紫朋会会員の皆様、在校生とご家族の皆様、教職員の方々の「健勝とご発展をお祈り申し上げます。

## 学校長挨拶



学校長  
高橋 則雄

単位制高校へ  
金沢高校に着任以来二年が経過しました

が、地域からの金高に対する期待の大きさに、日頃から身の引き締まる思いしております。

平成十五年度の神奈川県公立高校入試において、金沢高校でも初めて推薦入試（募集定員の二十％）が実施され、六倍を超える競争率となり、その後に実施された一般入試でも二倍を超える結果となりました。そして、十六年度入試より、これまでの推薦入試に替わる「前期選抜」及びこれまでの学力検査等選抜にあたる「後期選抜」の二回の選抜機会が設けられました。本校の前期選抜（募集定員の三十％）の競争率は四倍を超えました。

横浜市立高校は、十五年度より戸塚高校、南高校が、十六年度より金沢高校、桜丘高校、東高校が単位制高校となりました。単位制高校全てが単位制高校となりました。単位制高校では、基礎・基本の定着を図りながら、生徒自身が、興味・関心や進路希望等に応じて学習できるように、多彩で魅力的な選択科目を設置します。生徒は、入学から卒業までに決められた単位を修得し、その他必要な条件を満たせば卒業できるようになります。学区は市内全域となり、普通科高校五校へは市内のどこからでも受検できるようになりました。

このように、教育を取り巻く環境も刻々と変化しており、各学校では、多様な特色ある学校づくりが求められております。金沢高校は、十五年度に、時代の要請である情報教育の充実を図るため、北校舎に第二情報処理室を増設しました。さらに、横浜市立大学との連携も強化し、魅力ある学校づくりに努力しています。そして、今後とも、地域・社会から寄せられてきた期待と信頼をさらに厚くするため、充実発展に意を尽くす所存です。

紫朋会の皆様には、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、紫朋会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げ

## 平成十六年度

### 紫朋会総会のお知らせ

■日時 平成十六年五月二十九日(土)

■会場 横浜市立金沢高校

■第一部 午後一時から

講演会 視聴覚教室(階段教室)

演題 「IT(Information Technology)と数学とのかわり合いについて」

講師 山形大学理学部教授

小関 道夫氏(八期卒)

・詳しくは四ページ参照

■第二部 午後二時から

総会 視聴覚教室(階段教室)

議題 平成十五年度 事業報告

平成十五年度 決算報告

平成十六年度 事業計画

平成十六年度 予算案

役員改選

その他

■第三部 午後三時から

懇親会 食堂

会費 二、〇〇〇円

(平成十六年三月卒業生は無料)



### 平成十六年度 事業活動報告

#### ■ 常任幹事会

常任幹事会は、紫朋会の総会で決定・承認される各事業の企画を検討し、また、承認された予算をもとに各事業を執行する機関です。各卒業期ごとの代表（常任幹事）で構成されています。平成十五年度は次の通り開催されましたので、報告いたします。

#### 【第一回】

- 四月五日（土）於・金沢高校会議室  
議題 ① 議題「紫朋48号」発行について  
② 平成十四年度決算報告  
③ 平成十五年度事業計画・予算案について  
④ 平成十五年度総会について  
⑤ 役員改選について

#### 【第二回】

- 九月六日（土）於・金沢高校会議室  
議題 ① 会計中間報告について  
② 金高祭参画について  
③ 「紫朋49号」発行について  
④ 今後の紫朋会の在り方について

#### 【第三回】

- 一月二十四日（土）於・金沢高校会議室  
議題 ① 議題「紫朋48号」発行について  
② 平成十六年度事業計画について  
③ 今後の紫朋会の在り方について  
④ 役員改選について

※幹事会終了後、新年会を実施  
常任幹事会は紫朋会の運営には不可欠の重要な活動です。今年度の幹事会開催予定は別掲のとおりですが、今年度の紫朋会でも様々な活動が予定されていますので、クラス代表であるか否かにかかわらず、会員の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

#### ■ 平成十五年度総会

平成十五年五月三十一日（土）に定例総会を開催しました。

例年、総会は五月の最終日曜日に開催されていますが、今回は、常任幹事会での話し合いを経て、土曜日に実施することとなりました。

参加者の動向が気になりましたが、例年よりも多くの会員の皆様に参加していただき、安堵しました。

審議・報告事項は次の通りです。

- 平成十四年度事業活動報告
- 平成十四年度決算報告
- 会計監査報告
- 平成十五年度事業計画
- 平成十五年度予算
- 役員改選

いずれも各担当より報告がなされた後、承認されました。

総会に先立ち、「紫朋奨励賞」を受賞された、宇都宮大学農学部教授吉澤緑氏（七十七卒）の講演が行われ、「バイオテクノロジー」という私たちには難しいと思われる分野ではあります。とても身近でわかりやすいお話をしていただきました。

総会終了後、食堂で懇親会を行いました。今回は、五十一期卒業生が大勢参加され、にぎやかな懇親会となりました。

#### ■ ハイキングの会

第十七回目は西丹沢・東名高速をのぞき見るような所にある高松山に登った。

6月7日（土）6月のハイキングとしては最多の27名が新松田に集合、バスで高松山入口へ。登りのコースも山頂も富士山が良く見えるはずだが、時々薄日の射す曇り空、箱根の山々くら

いまでしか眺めがない。その代わり暑さが楽で、大世帯ながら全員そろって予定通り山頂到着。山頂で昼食、松口さんの友人バキスタンのラジャさんも交え歓談。うっかりブヨに刺されてしまった人も数人いた。

下山は半分以上が舗装された林道で、気楽におしゃべりしながら高松山入口バス停に下山。新松田のラーメン屋を占領して渴きを癒し、帰途に着いた。

第十八回は11月15日（土）「神奈川の景勝50選」のひとつでハイキングコースとしてよく知られた陣馬山に登った。

長い一ノ尾の尾根を登り山頂で昼食をとっている時、不参加予定の明石さんが最短距離を選んで駆け上がってきた。27名あった参加申込者が当日は17名に激減していたが、これで参加人数は18名になった。

前々日まで快晴の予報が曇り空で、今回も富士山は見え。冷夏など天候不順のせいか紅葉も今ひとつぱっとしない。

記念撮影の後下山、急な坂道を1時間、膝がおかしくなるころ、陣馬の湯「陣馬園」に着。入浴休憩、人数が多いので大広間に通され、皆すっかり寛いでしまっ。藤野駅まで徒歩1時間のところを横着し、宿の送迎バスを利用しました。



#### ■ 紫朋会「舟釣りの会」

昨年に続き今年も「舟釣りの会」を十月十八日（土）に実施しました。

今年度の釣り大会の参加者は合計7名。秋晴れの好天にも恵まれた当日、金沢八景駅からもほど近い金沢港の相川丸に集合し、朝7時半に出船しました。釣り場は行程約20分の本牧沖です。今回の狙いは、見かけが悪いが食味は抜群のカサゴ。カサゴの住むところは岩場なので、根掛かりも多く、苦労しましたが、微風の穏やかな海で談笑を交わしつつ釣り糸を垂れ、一日のんびりと釣りを楽しみました。獲物はメバルも入れて平均15匹と釣果もまずまずのうち無事夕刻に帰港し、次回も是非と語りながら散会しました。

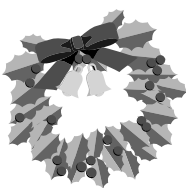
#### ■ 金高祭

平成十五年度の金高祭は、十月四日（土）・五日（日）に行われました。

昨年と同様に、各期卒業アルバム展示、来訪者へのお茶とお菓子のサービス、輪投げと乾電池のつかみ取り大会、金沢高校50年を振り返る写真展を実施しました。

#### ■ リース教室

十二月六日（土）10名のOBが参加して行われました。今年、クリスマスリースを作成しました。



# 学校便り

## ◎ 先生方の異動

1. 着任	筒井 真子	国語科	東高校から
	花田 憲司	国語科	東高校から
	菅田 昌宏	国語科	戸塚高校から
	伊藤 郭	社会科	桜丘高校から
	忻 喜博	英語科	戸塚高校から
	簡 優好	保健体育課	
	荻田 尚	保健体育課	

## 2. 離任

新倉 千秋	国語科	退職
岡本 小三郎	国語科	みなと総合高校へ
遠藤 広樹	国語科	横浜商業高校へ
中後 安弘	社会科	鶴見工業高校へ
伊藤 静香	保健体育課	みなと総合高校へ
鈴木 陽吾	保健体育課	退職
岡部 郁子	英語科	横浜商業高校へ

## ◎ 退職された先生から

国語科 新倉 千秋

私は平成十一年四月に本校に着任しました。そして、その年の八月上旬から九月中旬にかけて一月半ほど高血糖症状の悪化のため入院し、退院後も合併症の治癒が捗々しくなく、闘病生活を余儀なくされ、完治させえないまま定年を迎えました。三十七年間の教員生活の最後の職場が本校になるうとは就職当初は夢想だにしえなかったことでした。

今原稿用紙に向かつて静かに過ぎ去った時を振り返っていますと、その早さに驚きを覚えます。いろいろな雑念がわき出る中で、「二体人生とはなんなのだろう」といった疑問にとらわれてしばし思いをめぐらしました。

で、結局私なりに納得しえたことは、「人生はただただ歴史を作りただけであるのではないか」ということでした。日々の活動が後世に残るような生き方をしている人もあればそうでない人もいるといった具合に個々人の様々な生活記録を毎日作り続けているうちに記録ファイルの中の苦しかった出来事が思い出されて胸が痛みました。教師が教える楽しみを奪われては生き甲斐を失ったも同然。転職も考えざるを得なかったあの荒れたる学校での三年間の勤務、それはそれは辛く忌まわしいものでした。

本校での五年間の勤務は闘病続行中ということもあって心底から満足のゆく授業は出来ませんでした。が、平穏な環境の中で自分なりに楽しく講義をさせてもらえたことをうれしく思っています。健康体であったらもっと本校の発展のためにお役に立てたはずだと思いつけ、さしたる活動ができず「厄介になりっぱなしで去るのは残念至極ですが、こんな私に厚く、温情を注いで下さった皆々様方に深く感謝申し上げますと同時に至らざる点の多々あったことをも深くお詫び申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。

## ◎ 十五年度の主な出来事

時の流れとともに、金沢高等学校も変遷を遂げています。平成十六年度から単位制

普通科として再出発しますが、先輩が築きあげてきた古き良き伝統はしっかりと守り、次の世代に引き継いでいかなければなりません。入学者選抜の方法も、年々変化しています。ことは、前期選抜、後期選抜の二回に分けて行われました。また、高大連携事業も三年目に入り、横浜市立大学の授業を金高生が受講できるチャンスも充実してきています。

## 現役生の活躍

### 【運動部】

◎ サッカー部

◆市立総体三位

◎ 野球部

◆秋季県大会ベスト16

◎ テニス部

【男子】

◆県大会本選出場

【女子】

◆市トーナメント団体戦ベスト8

◎ 陸上競技部

◆県大会出場

◆市立総体出場

◎ バレーボール部

【男子】

◆市立総体リーグ戦優勝

◆秋季大会Aブロック優勝

【女子】

◆市立総体準優勝

◆サウスカップ二位

◎ バスケットボール部

【女子】

◆関東大会横浜南地区三位

◆市立総体優勝

◎ バトミントン部

◆市立総体優勝

【女子】

◆新人戦シングルス優勝

◆団体戦五位

◎ 弓道部

【男子】

◆市立総体団体の部準優勝

【女子】

◆県大会団体の部準優勝

◎ 剣道部

【男子】

◆市立総体団体の部三位

【女子】

◆市立総体団体の部準優勝

◎ 水泳部

【男子】

◆市立総体総合二位

【女子】

◆市立総体総合四位

◎ バトントワリング部

◆関東大会銀賞

【文化部】

◎ 吹奏楽部

◆吹奏楽コンクール地区予選銀賞



# 会員便り

## ○ 平成十六年度総会講演者



第八期卒  
(昭和三十五年卒)  
小関 道夫  
数学者  
山形大学教授

私は一九五七年に金沢高校に入学し、一九六〇年に同校を卒業しました。第八期卒業生ということになります。卒業時のクラス担任は武田孝先生です。数学の先生は亡くなられた石井忠司先生でこのお二人の先生には特にお世話になりました。

一九六五年に東京教育大学理学部数学専攻を卒業し、同年に名古屋大学大学院理学研究科に入学し、一九六七年に修士課程を修了し、博士課程に進学しましたが、その年の秋に東京都立大学理学部数学科助手として着任したために博士課程を中退しました。学部学生の頃から大学院では整数論を勉強することにしていたので、東京教育大学の四年次セミナーの指導教官の小泉正二教授(代数幾何学の専門家)に相談したところ、二、三の候補を挙げて頂きました。そのうちの一人の中で現実的に勉強が可能な人に絞った結果が名古屋大学の久保田富雄教授でした(他の候補はアメリカに滞在中

とかの人も居られて)。一九六四年の秋に、生まれて初めて名古屋に行き大学院の試験を受けました。最近の入り易い試験ではなく、数学の問題が三時間で五題それに、英語とドイツ語(あるいはフランス語)がありました。試験の結果は数学専攻合格者十五人中三位だったことが後の奨学金支給の手続きの過程で分りました。

久保田先生は当時三十四歳で代数的整数論の専門家として大家の一人でしたが、セルバークが創始した解析的理論に手を染め出した頃でした。大学院での修業は、学部と同様に講義形式のものもありますがそれは大事なことは看做されず、セミナー形式の勉強が重要なものと看做されています。現在でもこの傾向は続いています。セミナーは週に一回曜日を決めて学生が準備をし、発表をし、それを指導教官が遠慮の無い質問を浴びせてそれに対して学生が応酬して質問の矢玉を切り抜けて発表をし終えれば一回が終了することになります。一回のセミナーは三時間から五時間の間に二人ほどが発表するというペースで進行して行きました。学生も自分の自尊心を保持するために必要な準備では危ういので念には念を入れてセミナーに臨まなくてはなりません。当時の久保田セミナーでは上級生が二人それに私。一年経って下級生が入学して徐々に人が増えて行きました。私の選んだテーマは二次形式の整数論でした。英語のテキストを一年半程で読み終えそれから自分の関心の向きと重要さを判断の基礎に置いていくつかの論文を読んで行きました。セミナーで発表するものもありましたが、それ以外にも相当読みました。(英語、ドイツ語、フランス語の論文等)そのような勉強をしているうちに自分のアイデアを出して行く術もいつしか身につくようになって行きました。大学院では指導教官の影響もさることながら、上級

生、同級生、下級生の交流が修業の重要な一環であることが良く分かった時期でした。大学院での友人達と保型形式の勉強を指導教官抜きでセミナー形式で行いました。久保田先生は自分の研究テーマを学生に押し付ける型の人ではなく、学生自身に自由に研究テーマを見つけてそれを追求させるという指導方針でした。これは私には幸いしたことの一つであったと思っています。

名古屋大学で身に付けた大切な数学上の思想として次のことが今でも念頭に浮かびます。それは数学は研究の実体と、実体を調べるための道具とより成っている。実体とは(i)大体において微分方程式によって記述される自然現象と(ii)整数、実数とそれらの性質を記述する関数と方程式とである。それ以外のものは道具に過ぎない。道具としての数学はいかにそれが大きいものであってもそれに溺れてはならない。つねに実体に回歸することを念じよ。さもなくば研究の健全性は失われることになりかねない。このようにして名古屋大学大学院での修業を過ごしているうちに縁あって東京都立大学理学部数学科に助手として就職できて研究者としての生活を始めました。都立大学以降の経歴は以下の通りです。一九六七年より一九七五年まで東京都立大学理学部数学科助手、一九七五年より一九八〇年まで琉球大学理学部数学科講師として助教、一九八〇年より一九八八年まで長崎大学教養部助教について教授、一九八八年より一九九三年まで弘前大学理学部情報科学科教授、一九九三年より現在まで山形大学理学部数理科学科教授。一九七七年にActa Arithmetica(ポーランドの整数論の学術誌)に掲載された論文, On basis problem for Siegel modular forms of degree 2 を主たる業績として名古屋大学より理学博士を授与されました。研究生活での始めから十年ほどのテーマ

は二次形式の整数論と保型関数論でのいくつかの問題でした。琉球大学に居た頃から符号理論と二次形式の関係に注目するようになり個人的に本を購入したりして文献を読み出しました。有名なLevesqueの論文が出たのは一九七一年なので、この関心の持ち方は日本では最も早い方ではないかと思っています。琉球大学の頃からプログラミングにも手を染めだしました。整数論、組合せ論では実例を作ってそれから現象の法則性を見出すという行為が当然なので、この勉強は後年威力を示すようになります。

この勉強は後年威力を示すようになります。琉球大学では作譜が楽なBASのプログラミングだけでしたが、プログラミング作法には慣れました。長崎大学に移ってから同僚の一人はFORTRANプログラミングに明るかったので、彼の手ほどきを受けるうちに自分でもFORTRANプログラムが書けるようになりました。プログラムは今でも必要などときには自分で書いて計算をしています。長崎大学時代にはSage保型形式の研究のかたわら符号理論の研究成果も挙げられるようになり、整数論と組合せ理論に対して同じ程度の関心を持ち続け現在に至るまでこの状態が続いています。今までの研究業績としては、整数論プロパリの論文が十六編、組合せ理論プロパリの論文が十三編、整数論、組合せ理論に跨がる論文が五編都合三十四編。一年に一編のペースでこれは日本での数学者としては悪くないペースです。これに加えて国内での研究講演が四十回、外国での国際会議での講演が十四回です。また国内の研究集会の主権をこれまでに十一回勤めています。これまでに公表した仕事で、数学史的にも自分の名が残るものをいくつか挙げておきます。ただしこれについては個人の主観がはいるので半分は自分の思惑に過ぎないかも知れませんが予め断っておきます。

# 平成十五年度 寄付者一覧

紫朋会の運営は、在校生からの入会金と会員の皆様からの寄付によって成り立っています。

今年度も、多くの皆様からのご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。また、引き続きより多くの皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

今年度寄付をいただいた方々は、次の通りです。(敬称略)

- 2期 岩室 勉、森 明子、平島 喜導、今関 孝子、岡田 啓三朗、三富 ミナ子、山田 義雄、石橋 幸子、大野 伸子、森 志津子、石井 フジ子
- 3期 相川 政行、阿達 功、飯田 澄子、鹿野 融雅、蒲谷 博幸、三縄 憲一、石橋 貴美子、金井 清子、浜野 守、松本 良子、百溪 浩、浦崎 治子、片岡 悦子、丹内 明男、平木 雄子
- 4期 園田 純公、稲垣 俊治、清水 康光、林 美智子、藤井 美紗子、浅島 稔、木村 寿子、小林 栄一郎、森 正義、鈴木 幸子、右城 栄一、高橋 和子、高原 幸比虎、荒木 泰三、我妻 美知子
- 5期 菅野 由利子、田野井 俊一、津ノ井 三喜男、土岐 道子、荻島 勇治、冲山 哲、平井 英雄、村松 省三、相川 勲、島田 昭子、須々木 南恵、高橋 禮子、二宮

- やす子、渡辺 和子、櫻井 和子、左右田 宗夫、中田 貴子、橋本 博幸、水野 直春、小林 四郎、川島 学、齋藤 尊門
- 6期 齊藤 マツ子、金子 貞子、伊神 美智子、高橋 満、岡村 萬里子、奥田 美佐子、小林 節子、田宮 健三、富樫 美代子
- 7期 上野 昭紀、大津 弘子、大畑 敏久、岡田 幸子、小沼 廣喜、木村 クニ、小鮎 紀代子、上井 アキ子、大内 貞雄、山本 純代、本郷 弥生、藤田 騰、木村 裕一、中山 綾子、三好 征子
- 8期 グリフィス筈子、杉内 聖也、福谷 淑子、福留 八千江、三浦 博之、塚田 エイ子、小関 道夫、澁谷 徹、秀嶋 良夫、栗原 理、田中 容子、田村 洋一、八戸 敏夫、平柳 亮作、小川 恵美子、谷村 千恵子、堀川 昌美、綿貫 啓子
- 9期 後藤 信子、田野井 宣子、遠藤 美智子、大原 靖子、比企野 輝代、武村 陽子、上野 紘、中村 陽子、鈴木 弘、和田 政子
- 10期 香山 幸江、小山 健人、竹内 富美男、羽石 雅子、山本 光世、荻田 孝江、北見 邦夫、高橋 吉則、谷 昭彦、石田 正明、上田 廣一
- 11期 篠原 良子、岡田 紀子、小幡 あけみ、中島 博子、安島 幸子、本郷 千恵、佐藤 義明、蒲谷 勲
- 12期 明石 稔、石田 京子、佐田 和江、三上 保雄、日下 博子、高梨 修、矢田 融海、渡辺 みすず、川添 一弘

- 13期 高木 貴代美、梅原 マチ子、谷津 健治、名波 ちよ子、遠藤 和孝、細川 洋一、俣野 三恵子、柳本 茂、吉田 晋介、寺尾 智子、前田 重一
- 14期 佐藤 真里子、増田 美佐江、豊福 洋子、村山 正和、佐藤 邦彦、佐野 主水、高橋 和男、藤井 明夫、臼井 隆雄、石井 久枝
- 15期 池澤 幸子、斉木 和夫、島 あけみ、武田 則子、長島 昭三、金子 豊、島山 小夜子、田辺 隆利、有坂 由美子
- 16期 蒲谷 香津子、子安 久子、石井 潤子、吉田 君江、塚本 定夫、佐藤 伴子、水野 岳美、高野 研市、村上 賢、関 文雄
- 17期 井上 信子、山井 ちどり、山田 徳治、岩室 博、佐藤 満、中村 由明
- 18期 山野井 弘子、崎島 陽子、福士 ひろ子、遠藤 譲一、木村 雅和、山口 英雄、中根 克明
- 19期 小栗 かよ子、熊野 京子、田中 千恵子、山本 見代子、内田 郁子、木谷 博子、片桐 泰典、戸高 真澄、古屋 雅美
- 20期 中沢 郁子、笠井 敏雄、大宅 道子、菊地 豊子、福嶋 宏一
- 21期 原田 益孝
- 22期 三橋 徳子、早川 美子、岸本 達子、斉藤 和邦
- 23期 長谷川 隆、川上 倫、斉田 正道
- 24期 川上 佳子、三橋 涉、渡辺 弘志、戸塚 節子、黒川 肇、佐藤 智子、三浦

- 澄明、御園 昌人
- 25期 味見 ゆかり、大島 裕子、細谷 恭子、志賀 久美子、荒川 三枝子、坂下 心み、成田 洋子、松永 雅美、齊田 薫
- 26期 山本 一恵
- 27期 小出 美智代、村松 智津子、中条 由香里、浅川 均、小澤 美緒、北向 浩治
- 28期 内村 直美、清水 純子、中島 靖雄、大石 素子、里見 敦子、藤井 純子
- 29期 小坂 智子、坂田 治美、小久保 和子、竹田 智子、堀 晶子、榛葉 祐子、竹田 浩一
- 30期 阿部 昭子、阿部 敬子、内田 節子、内田 節子、田村 敬子
- 31期 田中 豊、小林 宏州、岡本 秀伸
- 32期 石倉 恵介、久保 信本、矢島 豊、岡部 千晶
- 33期 小林 剛、渋谷 りか、野中 誠、増田 智彦、杉本 勇治、柿沼 裕之
- 34期 毛木 由美子、小林 佳子、富澤 則之
- 35期 五十嵐 正喜、宮沢 結樹
- 36期 藪 謙二、石山 志帆子、石山 雅彦、植木 総一郎、井上 鉄生、佐藤 真理、池田 喜紀
- 37期 荒川 賢一、高田 郁枝、立石 力也、樋口 真
- 39期 小杉 信弘
- 40期 小川 一、松崎 伸、河野 弘景、工藤 恭子
- 41期 佐藤 俊彦、築瀬 大輔、早坂 善児



平成 15 年度寄付期別集計

期	金額	期	金額
2	¥51,000	27	¥26,000
3	¥80,000	28	¥12,000
4	¥52,000	29	¥17,000
5	¥93,000	30	¥15,000
6	¥36,000	31	¥8,000
7	¥54,000	32	¥10,000
8	¥57,000	33	¥12,000
9	¥24,000	34	¥7,000
10	¥50,000	35	¥4,000
11	¥17,000	36	¥14,000
12	¥50,000	37	¥8,000
13	¥32,000	39	¥2,000
14	¥37,000	40	¥10,000
15	¥25,000	41	¥6,000
16	¥46,000	42	¥18,000
17	¥24,000	43	¥6,000
18	¥19,000	45	¥8,000
19	¥23,000	46	¥2,000
20	¥3,000	47	¥4,000
21	¥3,000	48	¥4,000
22	¥19,000	49	¥2,000
23	¥6,000	50	¥10,000
24	¥22,000	51	¥6,000
25	¥26,000	旧職員	¥40,000
26	¥2,000	総計	¥1,120,000

子 51期 神崎 政雄、天野 優希、石黒 奈々  
 長島 昌伸、森山 雅美  
 50期 石渡 陵多、坂本 雄一、松岳 郁、  
 49期 新田 紋子  
 48期 松田 沙耶香、浦 辰徳  
 47期 板倉 篤、仰木 太郎  
 46期 吉田 拓也  
 45期 岩瀬 謙一、佐藤 光彦、久野 聡  
 43期 久保 和弘、中澤 芳幸  
 子 42期 衣川 陽子、戸田 宏子、村杉 亜以

旧職 唐鎌 忠孝、北島 三樹  
 匿名希望一名



# 赤岡指圧治療院

NPO法人日本指圧協会神奈川支部理事  
 日本手技療法学会会員

予約制・出張可

指圧の心 母心おせば生命の泉湧く

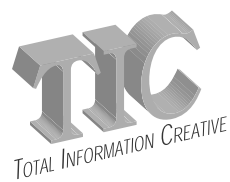
赤岡 充雄 (6期)

〒234-0055 横浜市港南区日野南7-11-5  
 Tel-Fax 045-891-4749  
 e-mail akaoka@1965.jukuin.keio.ac.jp

## Machintosh Art Work Office

ポスター/カタログ/パンフレット/チラシ広告/印刷物全般/企画・制作

E-mail: ticchosa@peach.ocn.ne.jp (自宅)



株式会社 ティ・アイ・シー  
 代表取締役 帖佐 芳明 (21期生)  
 〒144-0052 東京都大田区蒲田2-7-17 Tel.03-5711-1022 Fax.03-5711-1077  
 E-mail: tic@cello.ocn.ne.jp

労務管理・労災保険・雇用保険  
 健康保険・年金相談・給与計算

## 中村社労士事務所

社会保険労務士 中村 由明(17期)

〒235-0033 横浜市磯子区杉田1丁目11番29号  
 TEL・FAX(045)773-3751

### 平成十六年度事業計画

- ① 総会
  - ② 「紫朋」49号発行
  - ③ 常任幹事会
  - ④ 新幹事歓迎会
  - ⑤ ハイキングの会
  - ⑥ 舟釣りの会
  - ⑦ 金高祭への参加
  - ⑧ リース教室
  - ⑨ ホームページの運営
  - ⑩ 同期会・クラス会への補助
- 在校生への支援
- \*各行事の恩内、参加申し込みは、各担当者まで一報ください。

#### ■ 常任幹事会

- 第一回 四月十日(土)
- 第二回 九月四日(土)
- 第三回 一月二十二日(土)
- 各回 14:00~16:00

#### ■ 新幹事歓迎会

四月七日(水) 19:00~

#### ■ 総会

五月二十九日(土) \*一ページ案内参照

#### ■ ハイキングの会

第十九回 六月十二日(土)

シダング山

西丹沢、新松田からバスで30分、奇(やどろき)という集落の西側にある。標高758m、富士山と丹沢山塊を望む山頂は明るくのびやかで、コースも整備されている。歩行時間3時間半。

集合は大船駅7時50分(JR利用)  
横浜駅7時30分(相鉄・小田急利用)  
新松田駅前9時

▼ 第二十分 十一月十三日(土)

倉岳山

第六回に登った中央線沿線の山、鳥沢駅から登り始めて梁川駅まで。沢沿いの道は静かで、山頂は標高990mながら累々たる道志や丹沢の山並みは深山を感じさせる。下りも沢沿いで多くの巨木に驚かされる。歩行時間4時間半。

集合は東神奈川駅7時20分  
中央線高尾駅8時35分  
鳥沢駅9時20分

参加希望の方は事前にお申し込みください。詳しい計画書をお送りします。葉書またはFAXに①卒業期組②氏名③〒住所④電話⑤参加する回(19回、20回)⑥同行者がいれば氏名・連絡先を書いて左記宛てに願います。

5月総会の受付でも申し込みめます。

(申込先) 相川 勲

〒236-0016

横浜市金沢区谷津町278

FAX 045(781)3703

#### ■ 舟釣りの会

九月二十五日(土) 7:30~15:30

(申込先) 高梨 修

電話 〇四五(七八一)一九二四

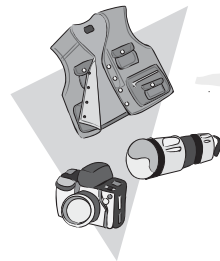
※天候条件等により延期となる場合もありますので事前にお問い合わせ下さい。

#### ■ 金高祭

十月二日(土)・三日(日)

#### ■ リース教室

十二月四日(土) 10:00~12:00



### 新幹事の紹介

今年度、五十二期生として新たに紫朋会の幹事とられた方をご紹介します。

- |    |       |         |
|----|-------|---------|
| 1組 | 山崎 和孝 | 西山 佳江   |
| 2組 | 末成 達郎 | 淵 裕美子   |
| 3組 | 山形 拓也 | 石川 梨紗   |
| 4組 | 宮越 亮丞 | 平久 由布   |
| 5組 | 足立 洋高 | ◎高城 めぐみ |
| 6組 | 岩石 遼太 | ◎清水 希枝  |
| 7組 | 石山 優子 | 松尾 佳和   |
| 8組 | 北山 泰資 | 吉濱 奏    |
- ◎は常任理事 (敬称略)

### 今後の紫朋会の在り方

(申込先) 御園 昌人

電話 〇四五(七七八) 七一五五

「紫朋会改革委員会」始動す!

昨年「紫朋」48号でお伝えしましたが、紫朋会の今後の在り方を議論し検討するために、「紫朋会改革委員会」が発足しました。

メンバーは会長、副会長、歴代会長、事務局長、有志常任幹事となっております。

第一回の委員会が平成十五年十一月八日に開催されました。

まず、高梨会長から出席者に対し「紫朋会改革委員会」の設置に関する趣旨説明があり、次に参加者から現在の紫朋会の問題点、今後どのように紫朋会を改革していったらよいかについての意見交換が活発に行われました。

意見の中心は、やはり運営資金の問題でしたが、在校生からの入会金の徴収や会員からの寄付に頼っているのには無理があるのではないかと、会費制にしてはどうか、法人化をして運営資金を得る事業活動をしてはどうか、などの指摘がありました。

今後は、今回出された意見や指摘を基に、具体化していくための検討に入ります。

最後に、もっと多くの会員から意見を聞く機会を増やすべきであるということで、「紫朋」ホームページで意見を募集することを確認して第一回委員会を閉会しました。

平成十五年度の役員・スタッフ

- |      |               |
|------|---------------|
| 会長   | 高梨 修 (十二期)    |
| 副会長  | 大津 弘子 (七期)    |
|      | 松原 尊臣 (十六期)   |
|      | 御園 昌人 (二十四期)  |
| 会計監査 | 伊藤 壽枝子 (八期)   |
|      | 佐藤 邦彦 (十四期)   |
|      | 中塚 路子 (十七期)   |
| 事務局長 | 佐藤 敏幸 (三十三期)  |
| 事業部長 | 村杉 亜以子 (四十二期) |
| 会計   | 蒲谷 香津子 (十六期)  |
|      | 佐藤 伴子 (十六期)   |

### 紫朋会 平成 15 年度決算報告

自 平成 15 年 4 月 1 日 至 平成 16 年 3 月 31 日

収入の部		
科 目	予 算	決 算
A 前年度繰越金	5,026,785	5,026,785
B 入会金	2,300,000	2,250,000
C 総会費	50,000	18,000
D 銀行預金利息等	1,000	37
E 寄付金	1,000,000	1,120,000
F 雑収入・会費等	80,000	45,637
収 入 合 計	8,457,785	8,460,459

支出の部		
科 目	予 算	決 算
A 総会費	100,000	180,344
B 常任幹事会費	150,000	57,762
C 紫朋発行費	1,400,000	1,327,200
D 同窓会・OB 会補助費	100,000	70,000
E 金高祭費	100,000	64,755
F 事務局活動費	400,000	353,028
G 郵送費	1,250,000	1,192,829
H 在校生支援金	700,000	88,116
I 予備費	40,452	0
支 出 合 計	4,240,452	3,334,034

次年度繰越金	4,217,333	5,126,425
--------	-----------	-----------

繰越明細	
横浜銀行 学校	625,416
横浜銀行 紫朋会	4,368,311
郵便局	0
現金	132,698
合計	5,126,425

### 紫朋会 平成 16 年度予算案

自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日

収入の部		
科 目	予 算	前年度予算
A 前年度繰越金	5,126,425	5,026,785
B 入会金	2,150,000	2,300,000
C 総会費	50,000	50,000
D 銀行預金利息等	1,000	1,000
E 寄付金	1,000,000	1,000,000
F 雑収入・会費等	80,000	80,000
収 入 合 計	8,407,425	8,457,785

支出の部		
科 目	予 算	前年度予算
A 総会費	200,000	100,000
B 常任幹事会費	150,000	150,000
C 紫朋発行費	1,300,000	1,400,000
D 同窓会・OB 会補助費	100,000	100,000
E 金高祭費	100,000	100,000
F 事務局活動費	400,000	400,000
G 郵送費	1,250,000	1,250,000
H 在校生支援金	700,000	700,000
I 予備費	40,452	40,452
支 出 合 計	4,240,452	4,240,452

次年度繰越金	4,166,973	4,217,333
--------	-----------	-----------

## 事務局からのお知らせ

卒業生のお店、会社、自営業の方を  
紹介して下さい

事務局では、「卒業生のお店大発掘」を引き続きしております。従来、飲食店を中心にしておりましたが、自営業者・経営者として各分野で活躍されている方を対象といたします。

紹介していただいた情報は、「ご本人の了承を得た後、「自営業者一覧」として、ホームページに掲載させていただきます。

自薦他薦を問いません。同封のハガキにご記入いただき、お送りください。よろしく願っています。

### ◎紫朋会ホームページリニューアル

五〇周年記念事業の一環として行いましたホームページをリニューアルしました。今後、随時メンテナンスしていきますので、期待して下さいます。

なお、メンテナンスに協力していただける方を募集しております。メールをください！

### ◎「紫朋会改革委員会」にご意見を！

七ページでご紹介しました「紫朋会改革委員会」への会員の皆様からのご意見を広く募集しております。紫朋会の今後の発展に関する率直なご意見をお待ちしております。

また、常任幹事の方で委員会に参加して意見を述べたいという方、大歓迎です。

